

千葉県サッカー選手権大会 兼 天皇杯JFA第99回全日本サッカー選手権大会 千葉県予選 (決勝)

2019年5月11日(土) 13:00キックオフ ~フクダ電子アリーナ~

プリオベッカ浦安 2(1-1,1-0)1 明海大学体育会サッカー部

主審:原田 雅士氏、副審:洲上 祥太氏、中島 智広氏、第4の審判員:牧野 耕三氏(文中敬称略)

千葉県のナンバーワンを決める注目の試合を終えた審判団に、フクダ電子アリーナでインタビューを行いました。



Q 熱い中お疲れ様でした。まずは、試合を終えて感想をお願いします。

原田：本当に暑かったですね…疲れました(笑)試合は審判団4人で協力でき、何事もなく無事に試合を終えることができホッとしています。フェアに一生懸命プレーしてくれた選手に感謝です！

洲上：まずは4人で協力して無事に90分を終える事ができてよかったです。できた事、できなかった事は当然ありますが更に成長できるように、まずは丁寧に試合を振り返りたいです。

中島：こちら(AR2)側はずっと逆光だったので本当に暑かったです、明海大の素晴らしい先制点で目が覚めました。思ったよりも浦安がシュートを打たないので120分も意識しましたが、90分で決着がついて良かったです。

牧野：無事に試合を終えることができ、ほっとしました。

Q 千葉県のサッカーチームのNo.1を決める大会の決勝戦でしたが、割り当てを受けた時の感想と、今日までどんな準備をしたか？教えてください。

原田：割当は受けた時は『ありがとうございます！』の感謝の気持ちでした。滋賀から移籍して2年目になりますが千葉の皆様からのサポートなしにこのような試合を任せさせて頂くことはできないので、改めてありがとうございました！(笑) 試合までの準備はいつも通りのトレーニングをしながら今シーズンの試合でた課題にチャレンジする、あとはいつも通り試合を楽しむことだけ考えていましたね！

洲上：まず千葉県最大のトーナメントの割り当てを頂けて光栄でした。割り当てを受けた時の感想は…「僕ですか？」でした(笑)同時にこのような試合を割り当てて頂ける立場なのだ改めて気を引き締めましたし、責任感を持って試合に臨みました。準備は特にいつもと変わりなく過ごしました。前日はよく食べて良く寝ます。これが一番です！(笑)。

中島：嬉しい気持ちと、緊張感の中での過去の苦い経験も踏まえて、身を引き締めて臨みました。準備はいつも通りです。トレーニングをして、朝早く起きて、時間に余裕を持って会場にきました。

牧野：5年ぶりにこの決勝戦の割当をもらって嬉しかったと同時に、緊張感が走りました。昨年6月の第3回カテゴリー研修「第4の審判員について」の研修メモを試合当日までに読みかえました。

Q みなさん、サッカー選手の経験があると思いますが、レフェリーになったきっかけは？

原田：まさかこのタイミングでその質問がくるとは…思っていませんでした(笑)もう忘れてしまいました…(笑)簡単にざっくり言うと高校の時の恩師が2種の審判委員長をしていたこともあり、3級まで取られました(笑)乗り気ではなく、トップチームにいたのでBチームの試合をする程度でペーパーレフェリーでしたね(笑)卒業後にクセの強い滋賀の偉大なる1級審判員(J1主審:今村義郎氏、J1副審:村井良輔氏)がいて…笑

お二人にお誘いして頂き、『一緒にJの舞台に立とう!!』とエールを頂いたとき、20歳のときですかね、真剣にレフェリーに向き合いましたね！あっ…意外と覚えていました…簡単じゃなくて話長くなりました。(笑)

淵上：僕はたまたま目にした松崎さんの「審判目線」という著書を見て4級の新規取得をしました。僕は小学校の頃しかまともなプレー経験はないです。でもサッカーが好きで何かかかわりたいと思っていたタイミングで松崎さんの本に出会えたので。それが2011年でした。「サッカーが下手でもピッチの特等席で見られる！」ってレフェリー最大の醍醐味だと思いませんか？千葉県選手権の決勝ならなおさらですね。

中島：ユース研修がきっかけでした。プレーも楽しかったですが、自分の選手としての実力では息長く続けられないな…と思っていたので、サッカーにより長く高いレベルで携わりたいと思ったのが一番最初でした。あとはやってみたら意外と面白かったことです(笑)。

牧野：1993年のJリーグ発足時に、私の中にいるサッカー虫が目覚まし、長男が小学4年生でサッカーを始めたときに、少年サッカーチームのお手伝いとして審判資格を取りました。

Q レフェリーの経験の中で印象深いことは？

原田：ベタな話になりますが1級受験の際の試合ですね！とにかく自分らしさを大事に嫌な緊張に毎回襲われていましたが、最後合格したときに家族、レフェリー仲間、友達に祝福してもらったことです。まだまだ恩を返せていないのでこれからも頑張ります！千葉のためにも頑張らせてください！（一同、『オー！』）

淵上：昇級試験に落ちていることですかね(苦笑)3級試験に2度、2級試験に1度落ちています。それでもこまめで来られるので皆さん、まずは競技規則テストから頑張らしましょう(笑)。

中島：諸先輩方からJリーグでの武勇伝を聞けること。普通に学生や社会人をやっているだけでは出会えない友人、仲間が出来ることです。

牧野：いろいろありますが、最近では、なでしこリーグ開幕前合同キャンプの審判をさせていただきました。日本のトップ女子のスピードと技術を目の当たりにして、身が引き締まる思いで頑張りました。

Q 原田さんは他県(滋賀)からの移籍と聞きましたが、千葉県に来てレフェリーに限らずサッカー全般でもいいので違いを感じたことはありますか？

原田：まずレフェリーに関してはすごくファミリー感があって温かい雰囲気はありますね！そこは滋賀に似ているなと思います！関東のイメージは少し閉鎖的な怖いイメージがあったんですが…(笑)快く自分を受け入れて頂き感謝です。サッカー全般に関してはサッカー文化の違いを感じました。サッカーレベルの高さ、試合の雰囲気、観客のみなさんの声援のなど一味、二味違うなど。決勝戦の審判団へのメダル受賞も初めてでした！今は千葉にすることができて良かったと思っています！お世辞やごますりではないですから安心して下さい(笑)。



Q まだお若くて1級になられたのですが、ズバリ将来の目標は？

原田：とにかくサッカーを楽しむ！その延長戦上に世界で戦えればと思っています！やるならトップになりたいのでW杯！まだまだサッカーを知りたいし、人間としても大きくなれたらと思います。そのためにも色々なご指導、ご鞭撻のほどとてもウェルカムなのでよろしくお願い致します！



Q 淵上さんは海外(英国)での審判経験もあると聞きましたが、日本が見習うべき！と思った事は？

淵上：最も大きな学びは「どこでやってもサッカーはサッカー！」でした。なので「見習うべき」などとは感じていません。強いて言うのであれば試合前のコイントスの時にキャプテンを含めて三者で自己紹介をするところですかね。今でもキャプテンの名前は控えて自己紹介をしてから試合に臨みます。話も聞き入れてくれやすいと感じています。(一同、『へー！』)

Q 副審のお二人は学生の頃から審判活動しておられますが、ズバリ将来の目標は？

淵上：僕は社会人になってから始めたのですが〜(笑)。目標は一つ一つの試合を大切に臨む事です。その先にまたこのような機会があれば嬉しいです。一人でも多くの仲間と楽しく審判活動をしていきたいですね！

中島：1級審判！と元気よく言いたいところですが、1級を目指す環境も毎年大きく変化しているので最近いろいろ考えます(笑)1級を目指すことを念頭に置くことはもちろん、2級として長期的に関東や千葉県に少しでも貢献することも一つの大切な役割だと思って活動をしていきたいです。



Q 牧野さんは、他の3名より少し年配となりますが(笑)、今後も楽しく審判活動するために必要な事は何だと思えますか？

牧野：精神面でのタフさも必要ですが、90分間走れる体力を維持することがもっと必要だと感じます。仕事を終えて帰宅後、時間的余裕があればジョギングするようにしていますが、家内からは遅い時間に近所を走らないでと言われます。不審者と間違えられるのが嫌だから…！(笑)気を付けます！

第34回日本クラブユース (U-15) サッカー選手権 千葉県大会 決勝戦

2019年6月2日(日) 13:00キックオフ ～第一カッターフィールド～

プリオベッカ浦安 2-2 (0-1、2-1) PK2-4 VITTORIAS FC

主審:柘植 政宏氏 副審:大勝 雅禎氏、井村 友哉氏、第4の審判員:柴田 義昭氏
PK戦にまでいく白熱した戦いを素晴らしいレフェリングで無事に終えた3名に試合後の感想を聞きました。

柘植 政宏(つげ まさひろ)氏(主審)

私は決勝の舞台は初めてだったので多少の緊張はありましたが、いざピッチに立つたらそれほど緊張する事も無く普段のレフェリングをする事が出来ました。

走る事を意識して試合に臨みましたが、前半走りすぎて最後まで持つかないと思いましたが、なんとか最後まで走り切れました。試合自体も白熱し時間が経つにつれてどんどん楽しくなってきた、自分の中で良い経験になったと思います。



大勝 雅禎(おおかつ まさよし)氏(副審1)

この大会の決勝レフェリーは2回目で雰囲気分かっているのでも、気持ち的な部分で余裕をもって臨めました。今日のレフェリングについてはレフェリーサポートも出来ましたし、ジャッジに関しても難しいものも無くて概ね合格点かなと思っています。

試合も白熱した良い試合で楽しく終わる事が出来て良かったです。

井村 友哉(いむら ともや)氏(副審2)

決勝の舞台で審判するのも初めてで一日ワクワクしながら試合に入って、自分自身のジャッジもミスなく楽しみながら務める事が出来ました。ジャッジも丁寧に大きな事象も無く終える事が出来たので良かったと思います。



井村氏



柴田氏



柘植氏



大勝氏